

平成30年度「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業」
筑波大学 成果報告書

(1) スポーツ分野の統括業務の実施状況について

本学では、これまで課外活動であった運動部活動を正式な教育プログラムとして位置付けること、そして学生アスリートの安全を確保し、スポーツ活動のサポートを促進するため、本格的なマネジメントと共に健全な大学スポーツのプロデュースへと進めていくことを目的としている。そのため、2018年4月にアスレチックデパートメントを設立、以下の2つの人事面の健全化に向けた取り組みを実施した。

- 1：部の指導者については大学が契約を締結すること。
- 2：部活横断的なアスレティックトレーナーを大学で雇用すること。

1の実装により、現在筑波大学ではアスレチックデパートメントの管轄部活において、アシスタントコーチを含む全ての指導者が大学と契約関係にある。このことは従来の課外活動の仕組みを変革し、人事権を大学が有し、指導者を大学の意志に基づく「教育者」として担保し続けるための実装である。

また、複数チームを横断的に見るアスレティックトレーナーの雇用は劇的な成果を見せている。従来完全に別々の活動となっていた日本の部活動が、安全対策においてチーム横断的な対策を取ようになり、既に秋のシーズンにおける故障者や離脱者は大幅に減っている。アスレチックデパートメントがトレーナーと契約するというシステムはあらゆる大学に展開できるものである。



(2) 大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について

筑波大学では2017年9月、アスレチックデパートメント設置準備室の立ち上げと同時にスポーツアドミニストレーターを2名雇用済である。1名はスポーツの現場および学内のプロジェクトをマネジメントし、1名はパートナーシップ、他団体、一般学生等の渉外活動をマネジメントしている。

前者は主に部活動のマネジメントおよび学内連携に責任を持ち、後者は常に一般学生や地域、他団体を意識したマネジメントを展開している。この両アドミニストレーターがそれぞれの領域において連動する形をとっているため、活動から広報までがスムーズに動いている。日本版 NCAA の創設に際し、様々な大学から相談も受けているが、大学との協議を後者が促進し、その協議で出た事例やアイデアを前者のアドミニストレーターに反映することで、筑波大学内の改革もアップデートを続けている。多くの大学でスポーツアドミニストレーターは1名と考えているケースもあるが、実働においては2名以上の体制を推奨したい。2019年度はさらに拡充を予定している。



(3) 先進的モデル事業の実施状況について

2018年秋に全学生が受講可能なアスレチック部門主催の「自由科目（特設）」を開講した。合計10回の授業を行い、全学に向けた「大学スポーツの改革」に特化した内容で実施した。その一部では生放送する等の発信も行い、落合陽一氏や米 temple 大学から外部講師も登壇、学群を問わず約150名の学生が受講した。既に将来はスポーツアドミニストレーターになりたいという学生も登場しており、来期2019年度の開講も決定している。





(4) 米国との連携事業の本格化

2019年1月にはスポーツアドミニストレーターが米オーランドで開催されたNCAAコンベンションに出席。NCAAは「大学の意志の集合体」と称される通り、学長や教員、また大学で雇用された指導者やアドミニストレーターが出席している点が明確である。また、大学のスポーツに対する投資の意志によってディビジョンが分けられていること、そのディビジョンごとに各課題が活発に議論されている構造は日本においても不可欠な姿である。

また、同コンベンションへの出席と合わせて、提携先の米テンプル大学やUCLAのアスレチック部門とも直接の協議を実施。日本の現状の伝達と共に、すぐに日本でも適用できることを議論した。

その結果、筑波大学は帰国後に以下4つの取り組みを実施。

a：学生アスリートの学業基準を規定したアワード（表彰式）を開催すること

2019年2月23日に大学でアワード（表彰式）を開催。表彰の権利取得者はGPA（履修科目成績平均値）を規定し、学業との両立を義務とした。「ALL ACADEMICS AWARD(学業表彰)」「ALL ATHLETICS AWARD(スポーツ表彰)」「ATHLETIC DEPARTMENT SPECIAL AWARD(特別表彰)」を展開し、最後に年間の「Student of The Year(MVP)」を表彰した。そのいずれの受賞者もGPA3.2以上でなければ表彰を受けることができない規定となっており、これは将来の学生たちが常に3.2という基準を意識しながら学業との両立を図ることを目指したものである。



b : 将来のリーダーとなるべき学生を米国に研修に送り出すこと

男女ハンドボール部はデンマーク、男女バレーボール部はハワイ大学、硬式野球部は米フロリダと1～2名の将来のリーダー候補生を研修に送り、合理的で健全な部活動の在り方を学ばせた。帰国後には部内で報告会を行い、各部で共有を行った。既に次期リーダーとしての意識改革が進んでいる。



c : 大学アスレチック部門のニックネーム・マスコットを決定し、学内に展開すること

筑波大学は芸術専門学群との連携によってニックネーム・マスコットを制作。最終候補作品の中から「学生アスリート」「学長・副学長」「一般学生・教職員」の3つの投票枠を設け、最多得票を集めた「OWLS (アウルズ)」に決定した。既にバナーやロゴマーク等の制作が動きだしており、今後の全学連携の起爆剤になることを目指している。



d : 複数大学合同の実践型のシンポジウムを開催すること

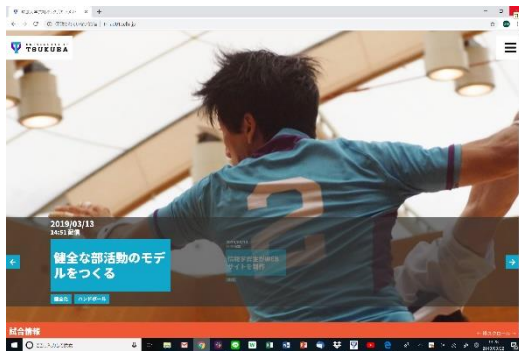
2019年3月20日に、神奈川大学、中京大学、関西学院大学と合同で実践的なシンポジウムを開催。NCAA コンベンションをモデルとし、改革の意志を持つ大学によって集合体を作り、議論を発信した。改革を進める各大学で多くの共通点が見られ、出席大学の反響は極めて大きいものとなった。今後も様々な大学と連携した協議会を予定している。



以上の4つの活動を NCAA コンベンションや米国大学との協議を元に実践した。

(5) 映像や画像の整備とWEBサイトでの発信へ

2019年3月末にアスレチック部門の新WEBサイトをリリースした。
本サイトの制作においては約半年の時間をかけて映像や画像を整備、スポーツ活動およびその改革やプロジェクトの様子を学内外に発信できるよう準備した。
2019年度以降は全学の学生に対してマスコット等とも連携した広報活動を展開予定である。



以上